

米国の継承日本語教育学校紹介

連絡先		
学校名（またはプログラム名）ウェブサイト	学校所在地（例 カリフォルニア州ロサンゼルス）	連絡担当者のお名前とメールアドレス
オレンジコースト学園 www.orangecoastgakuen.org	カリフォルニア州ロサンゼルス)	岸水 ひろみ Kishimizu05@cox.net

学校について	
学校（あるいはプログラム）の設立の年と設立の背景	1975年に協同システムの一校として非営利の日本語学校が設立されたが、2010年に協同システムより独立し、独自のカリキュラム、教育方針のもとに新たにオレンジコースト学園を設立した。
教育目的とゴール	日本語のバックグラウンド・能力に関わらず、楽しく日本語と日本文化を学ぶことのできる場を提供することを目指し、卒業した後も生涯を通して日本語を愛し学んでいくことを望む生徒を育てることを目指している。
学校運営資金、資金の支援組織・団体（もしあれば）	生徒の授業料およびP A会費 ファンドレージング
学校の組織（例 理事会、父母の会、教師会など）	理事会、父母会、教師会の3組織が、運営委員会、理事会をそれぞれ毎月1回づつ開き運営している。
学校施設（例 公立の高校の施設を有料で借りている、コミュニティーセンターを無料で使用）	私立のクリスチャンスクールの校舎を有料で借用している。

家庭数
73

子どもの言語背景			
日本語だけを話す	日本語と英語（または他の言語）を話す、日本語の方が多し:	日本語と英語（または他の言語）を話す、英語（または他の言語）の方が多し	英語（または他の言語）だけを話す。(家庭では日本語は使われていない)
約 3 %	約 15 %	約 41 %	約 41 %

授業数		
授業のある曜日	授業時間（一日の総時間）	授業のコマ数(例 1時間目：8:45-9:30)
土曜日	週4時間授業	1時限45分授業 8：45－9：30
<p>授業内容について特記することがある場合、ここにご記入ください</p> <p>地域の日本語教師会や継承日本語学校の研修会で自分達の教え方を発表して、シェアしています。それから、各レベル、差別化授業をとり入れたマルチレベル(複式)のクラスです。</p>		

日本語のコースについて		
コースの種類 (記入例 継承語（日本語を家庭で話す児童のための）コース、親は日本語母語話者であるが日本語を話さない子どものためのコース、外国語としての日本語のコースなど)	レベル (記入例 幼児部)	各レベルの学習者数（過去3年の平均） (記入例 15名)
JHLコース（継承語コース）		
	幼稚部	14名
	1－2年生	13名
	3－4年生	7名
	5－6年生	8名
	中学	10名
	高校	6名
JFLコース（家庭で日本語なし）	1－2年	10名
	3－4年	10名
	5－6年	16名
	中学	6名
	高校	8名
Japanese コース (家庭で日本語なし、高校レベルで初めて外国語としての日本語を学ぶ生徒のためのコース)	原則的に9年生から	8名
補習クラス（途中入学や、別のクラスへの編入に伴い、学習内容のキャッチアップが必要な児童生徒のための補習クラス）		
みかんクラブ（保育コース）	3－4歳児	7名

大人会話クラス	原則的に親 対象	8名
文化クラス (お習字・お花)	生徒・親 対象	10名前後

教師				
教師数	給料が支払われる TA (アシスタント) 数	ボランティアの TA 数	教師のバックグラウンド (記入例 日本の幼稚園免許保持者 XX 名、アメリカの教員免許保持者 XX 名、など)	教師研修の有無 (記入例 学校独自のもの: 年 2 回 継承語学校対象のもの: 年 1 回 地域の日本語教育一般のもの: 年 1 回)
10名	3名	1名	日本の教員免許保持者 4名 アメリカの教員免許保持者 2名	学校独自のもの: 必要に応じて、学期で 2 回、年 3-4 回の勉強会 継承語学校対象のもの: 年 1 回 地域の日本語教師一般用: 年 1 回
教師に関して追加情報がある場合、ここにご記入ください。				

教材 (上記各レベルで使用の教材。教科書があればタイトルと出版社名を記入してください。自作教材を使用の場合、内容を説明してください)	
レベル	教材
JHL サイド	自校で開発した教科書を使用 (コンテンツベースインストラクション、探求型アプローチ、4 技能 (話す・聞く・読む・書く) 統合型アプローチ、ハンズオンを使った学習活動を取り入れた教材。トピックの一例: 環境問題、自然、動植物、栄養、などアメリカの学校教育のスタンダードを参考にし、それと関連のあるトピック、及び文化学習として年中行事 (日本とアメリカ)。
1-2 年生用	「けんけんぱ」レベル 1
3-4 年生用	「けんけんぱ」レベル 2
5-6 年生用	「けんけんぱ」レベル 3
中高生用	「けんけんぱ」レベル 4
JFL サイド	「じゃんけんぽん」を参考に自校の教科書を作成
1-2 年生用	「じゃんけんぽん」ステージ I

3－4年生用	「じゃんけんぽん」ステージ2
5－6年生用	「じゃんけんぽん」ステージ3
中学	「エリンが挑戦！日本語できます」1・2
高校	「エリンが挑戦！日本語できます」2・3

教育機器・テクノロジー（学校で使用している機器やテクノロジーを記入してください）

プロジェクターは各クラスに1台設置。
 PCは教師が持参するが、学校の物は2台あり。
 ドキュメントカメラは3台あり、交代で使用。
 ホール用のプロジェクター、スクリーンは学習発表会やスピーチコンテストに活用

評価方法（どのように学習者の学習到達度を測っているか）

各学期のオブジェクティブを書き出した項目ごとに学習到達度を「一人でできる」「ヒントがあるとできる」「もう一息」の3段階で評価している。クラスでの生徒のパフォーマンスをオブザベーションした記録、筆記テスト、発表力、話し合いでのリーダーシップなどを参考にする。
 年に2回、大判の通知表を2枚ご家庭に配布している。
 また、学期ごとの学習到達度の測定とは別に、定期的に日本語のプロフィシエンシーを測定し、児童生徒各自の日本語力の伸びを調べている。

現地の学校との連携の有無（例 日本語クレジットテストを実施し、パスすると現地の高校の外国語のクレジットがもらえる）

CAJLS (California Association of Japanese Language Schools)主催の日本語クレジットテストを受験し、その結果を現地の高校にレポートして外国語の単位を取得している。

日本文化を教えるための行事や活動（年間を通してどのようなことをしているか）

夏祭り（お盆前後）運動会（体育の日）収穫祭（文化の日）お菓子屋敷き（ハローウィン）プロジェクトまたは収穫祭プロジェクト（JHLクラスは縦割りで班を作りプロジェクトを計画・実行する）
 学習発表会（1学期最終日）餅つき（1月）節分（2月）ひな祭り（3月）子どもの日（5月）七夕（隔年）

その他（上記項目以外の追加情報があれば記入してください）

2010年の独立に際し、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校日本語科の片岡裕子先生、ダグラス昌子先生、知念聖美先生をカリキュラムアドバイザーとして迎え、アメリカで生まれた日本人生徒のためのカリキュラムおよび教科書作りに力を入れている。

ハンズオン教材、工作、料理、実験、植物栽培など、子供たちの興味に基づく教材から日本語の言葉および学科の内容を学ぶ方式をとっている。
最先端の指導法を学べるだけでなく、教師として自分を高めることのできる学校だと自負している。